

「思い込みからの脱却」

科目履修生

18U1401 岡林 紀恵

高橋さん、考える講義をありがとうございます。

経験を話されるより、考える時間、対話をする時間を設けていただいたこともあり、いつもより時間が短く感じました。

確かに、昔は「障害者＝助けてあげる人・かわいそうな人」の印象を多くの人が持っていたように思います。しかし、最近は社会全体も変わってきているように感じる反面、まだまだ偏見はあるのかとも思います。

今回の話の実例で、自転車や点字ブロックについての内容がありました。その中で、啓発活動などは声が届く人が限られるとおっしゃっていました。他人に関心を持たない人が増える中で、個にはたらきかけるには限界があると思います。その中で発想を転換し、まず環境要因を取り除いたり、そうせざる得ない環境にしてしまうことは有効なことだと思います。

意識に働きかけたり、そこに頼ることは長続きしません。言ってもダメなら、そうしなければならぬ状況にすることは、日常の中でインシデント予防に対して行っています。個の要因を責めるのではなく、物理的要因やシステムを見直すようになりました。

健全者と障害者の関係性についてのお話では、普段から選択肢を多く持つようにすることで負担感を減らすことができるとのことでした。最近は「多様性」ということが多く言われています。色々な意味で、解釈する（働き方の多様性・考え方の多様性）ことができますが、管理者としてこれを受け止めるには、対人関係において自分の考え方を広げ、多様にしなければ対応できません。その意味で、物事を多角的に捉えるよう心がけています。今回の選択肢を多く持つことは互いに必要であり、お互いに良い関係を続けるためにも大切なことだと思います。

ユニバーサルデザインコーディネーターの資格についても初めて知りました。資格を取ることが目的ではなく、考え方や思考の転換ができることが重要になってくると思いました。

良い関係を築くために、相手に対する思い込みや先入観を取り払い、まず互いを知ることが大切だと、今日の講義を聞いて改めて思いました。